第20講　の・が（格助詞）

PART1　格助詞とは

格助詞（が・の・を・に・へ・と・より・から・して・にて）

★接続

「　　」もしくは「　　形」に付く

★働き

格助詞が付いている語（上の語）が、他（下）の語とどんな関係になるかを示す。

〈Memo〉

第20講　PART1　確認問題

① 格助詞の働きとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　前の文節と後の文節をつなげるはたらきをもつ。
イ　述語と関係しあっている語に付き、強調や疑問、反語などの意味を示す。
ウ　種々の語に付いて限定や添加などの意味を添え、下の語を修飾したり限定したりする。
エ　文中や文末にあって、語調を整えたり、詠嘆や感動などの意味を添えたりする。
オ　文の終わりにあって、希望や詠嘆、禁止などの意味を添える。
カ　この助詞が付いている語と他の語が、文中でどのような関係であるかを示す。

② 格助詞が入る箇所として最も適当なものを、次の中から選べ。

おもしろく【ア】咲き【イ】たる桜【ウ】長く折りて、大きなる瓶（かめ）にさしたるこそをかしけれ【エ】。

③ 格助詞「に」の直前にある傍線部「たまふ」の活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

大進生昌（だいじんなりまさ）が家に、宮のいでさせたまふに、東（ひむがし）の門（かど）は四足（よつあし）になして、…

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

④ 傍線部の助動詞「らる」を正しく活用させたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

つかうまつるべきよし仰せらるに、…

ア　られ　イ　らる　ウ　らるる　エ　らるれ　オ　られよ

⑤ 傍線部の助詞のうちから格助詞でないものを、次の中から選べ。

神無月（かみなづき）の（ア）ころ、栗栖野（くるすの）と（イ）言ふ所を（ウ）過ぎて（エ）、…

第20講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①　格助詞は、上の語が他（下）の語に対して文中でどのような関係にあるかを示す助詞である。よって、カが正解。

②　格助詞は、体言または活用語の連体形に接続する。ア直前の「おもしろく」は形容詞の連用形、イ直前の「咲き」は四段動詞「咲く」の連用形、ウ直前の「桜」は体言、エ直前の「をかしけれ」は形容詞「をかし」の已然形。よって、正解はウ。動作の対象を表す「を」が入る。

③　「たまふ」は終止形もしくは連体形。格助詞は活用語の連体形に接続する。よって、エが正解。

④　格助詞は、体言または活用語の連体形に接続するので、尊敬の助動詞「らる」の連体形「らるる」となる。よって、ウが正解。

⑤　それぞれ接続している直前の語を確認する。アウは体言に接続している格助詞だが、エはガ行上二段活用動詞「過ぐ」の連用形に接続しているので、格助詞ではない。また、イは引用を表す格助詞である。

〔解答〕

①　カ　②　ウ　③　エ　④　ウ　⑤　エ